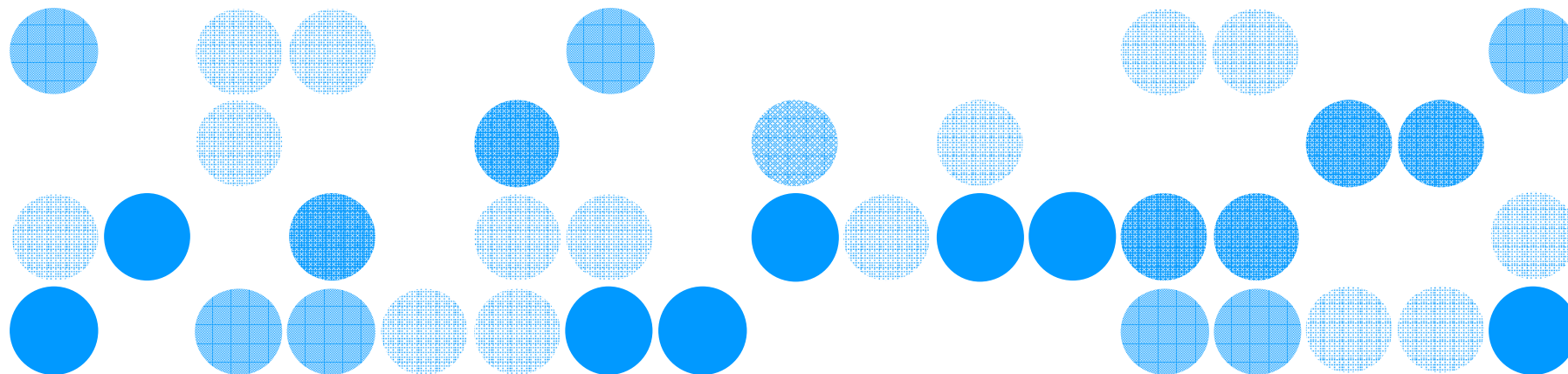

OMRON

Sensing tomorrow™

平成22年(2010年)3月期決算 投資家様向け説明会



2010年4月28日

オムロン株式会社

エグゼクティブ・サマリー	P.3
2010年3月期決算報告	P.4
2011年3月期見通し	P.30
構造改革の状況と今後の取り組み	P.38
ご参考資料	P.45

<注意事項>

1. 当社の連結決算は米国会計基準を採用しています。
2. 業績見通し等は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等はさまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なることがあります。実際の業績等に影響と与える重要な要因には、(i)当社の事業領域を取り巻く日本および海外の経済情勢、(ii)当社製品・サービスに対する需要動向、(iii)新技術開発・新商品開発における当社グループの能力、(iv)資金調達環境の大幅な変動、(v)他社との提携・協力関係、(vi)為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
3. 2010年3月期よりFASB基準書第280号「セグメント報告」を適用しております。当基準書の適用に伴い、前連結累計期間に係わるセグメント情報の数値(SSB売上・各セグメント営業利益)を組替えて表示しております。
4. 当期において、ECB(エレクトロニクスコンポーネツビジネス)をメカニカルコンポの強化に向けEMC(エレクトロニク&メカニカルコンポーネツビジネス)へ改編し、ECB傘下のバックライト事業とマイクロデバイス事業を社長直轄の新組織へ移管しております。これに伴い、従来「IAB」「ECB」「AEC」「SSB」「HCB」に区分していた事業セグメントは、当第3四半期より「IAB」「EMC」「AEC」「SSB」「HCB」「その他」の区分に変更しております。また、過年度の数値につきましても新組織区分に組替えて表示しております。

2010年3月期 決算とポイント

- ▶ 業績は第1四半期で底を脱し、第2四半期以降回復が継続
- ▶ 売上は前年同期を下回るが、緊急対策効果により増益

(連結業績)	2010年3月期実績	2009年3月期実績	前期比	前回見通し (2010年1月)	前回見通し比
売上高	5,247億円	6,272億円	△16.3%	5,200億円	+0.9%
営業利益	131億円	53億円	+144.9%	100億円	+30.7%
税前利益	102億円	△391億円	—	55億円	+85.4%
当期純利益 (当社株主に帰属する)	35億円	△292億円	—	30億円	+17.3%

2011年3月期 業績見通しとポイント

- ▶ 景気回復とともに売上は約10%増加、利益は大幅増加の見通し

(連結業績)	2011年3月期見通し	2010年3月期実績	前期比
売上高	5,800億円	5,247億円	+10.5%
営業利益	330億円	131億円	+152.4%
税前利益	330億円	102億円	+223.7%
当期純利益 (当社株主に帰属する)	200億円	35億円	+468.5%

※為替レート前提 USD・・・90円、 EUR・・・125円

エグゼクティブ・サマリー	P.3
2010年3月期決算報告	P.4
2011年3月期見通し	P.30
構造改革の状況と今後の取り組み	P.38
ご参考資料	P.45

- 第2四半期以降の回復が継続し、売上は前回見通しを上回る
- 売上回復と主に緊急対策の効果により営業利益は前年を上回る

(億円)

全社PL	2010/3期	2009/3期	前回見通し (2010/01)	前期比	前回 見通し比
売上高	5,247	6,272	5,200	△16.3%	+0.9%
売上総利益	1,843	2,185	1,815	△15.6%	+1.6%
販管費	1,334	1,643	1,325	△18.8%	+0.7%
R&D費	378	489	390	△22.6%	△3.0%
営業利益	131	53	100	+144.9%	+30.7%
営業外費用	29	445	45	△93.5%	△36.0%
税引前当期純利益	102	△391	55	—	+85.4%
当期純利益	35	△292	30	—	+17.3%
				前期差	前回見通し差
USDレート (円)	92.9	100.7	92.7	△7.8	+0.2
EURレート (円)	130.3	144.5	131.7	△14.2	△1.4

法人税等、持分法投資損失等に関する補足

(億円)

	2010年3月期
売上高	5,247
営業利益	131
税引前純利益	102
当期純利益 (当社株主に帰属する)	35

▲67億円 →

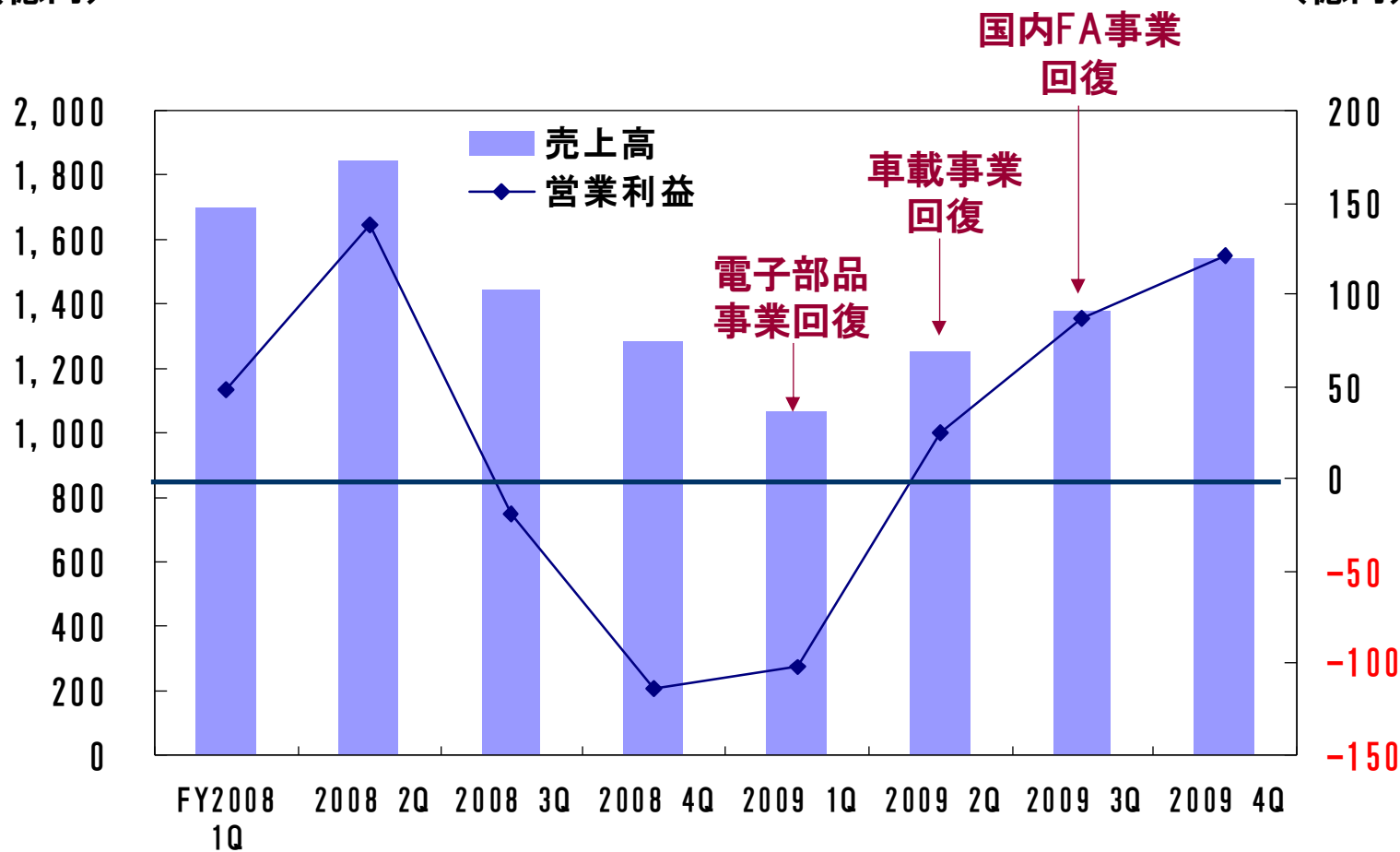
	(億円)
	内訳
法人税等	▲38
持分法投資損失	▲28*
非支配持分帰属損失	▲1

* 主な要因は、持分法適用会社(HOTS)の当期純損失による

・HOTS: 日立オムロンターミナルソリューションズ(ATM等の情報機器の製造・販売、2004年10月1日設立)

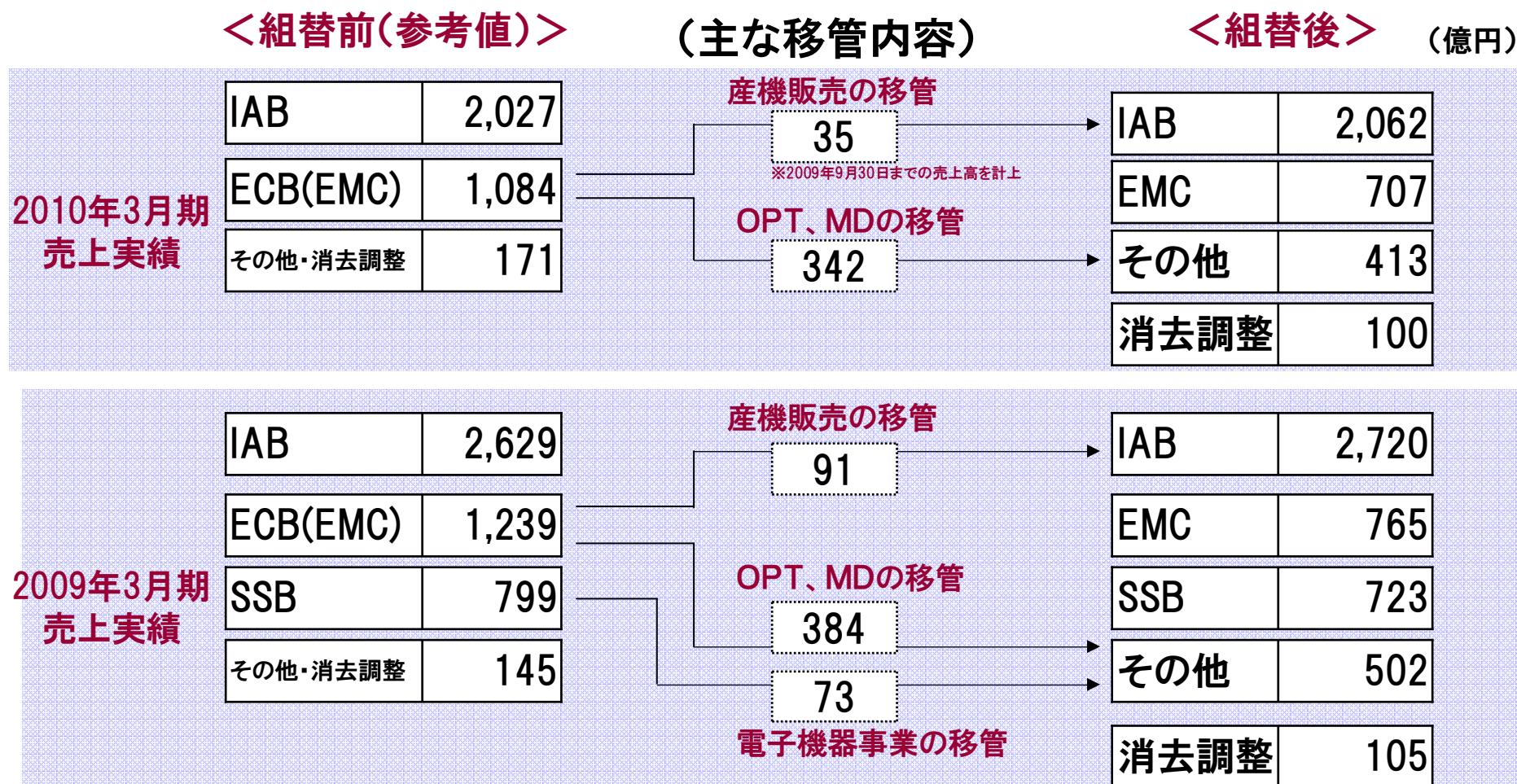
売上高
(億円)

営業利益
(億円)



セグメント変更による組替状況(売上高)

▶ 2009年10月の組織変更により、セグメント情報を組替えて表示



連結売上高明細(新セグメント別)

▶全セグメントで前年を下回るものの、第2四半期以降の回復が継続し、IAB・AEC・SSBでは前回見通しを上回る

(億円)

セグメント別	2010/3期	2009/3期	前回見通し (2010/1)	前期比	前回 見通し比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	2,062	2,720	2,040	△24.2%	+1.1%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	707	765	711	△7.6%	△0.5%
自動車用電子部品事業 (AEC)	752	821	735	△8.5%	+2.3%
社会システム事業 (SSB)	580	723	567	△19.8%	+2.3%
健康・医療機器事業 (HCB)	634	636	640	△0.4%	△1.0%
その他	413	502	425	△17.8%	△2.8%
消去調整他	99	105	82	△4.8%	+21.5%
合計	5,247	6,272	5,200	△16.3%	+0.9%

連結営業利益(新セグメント別)

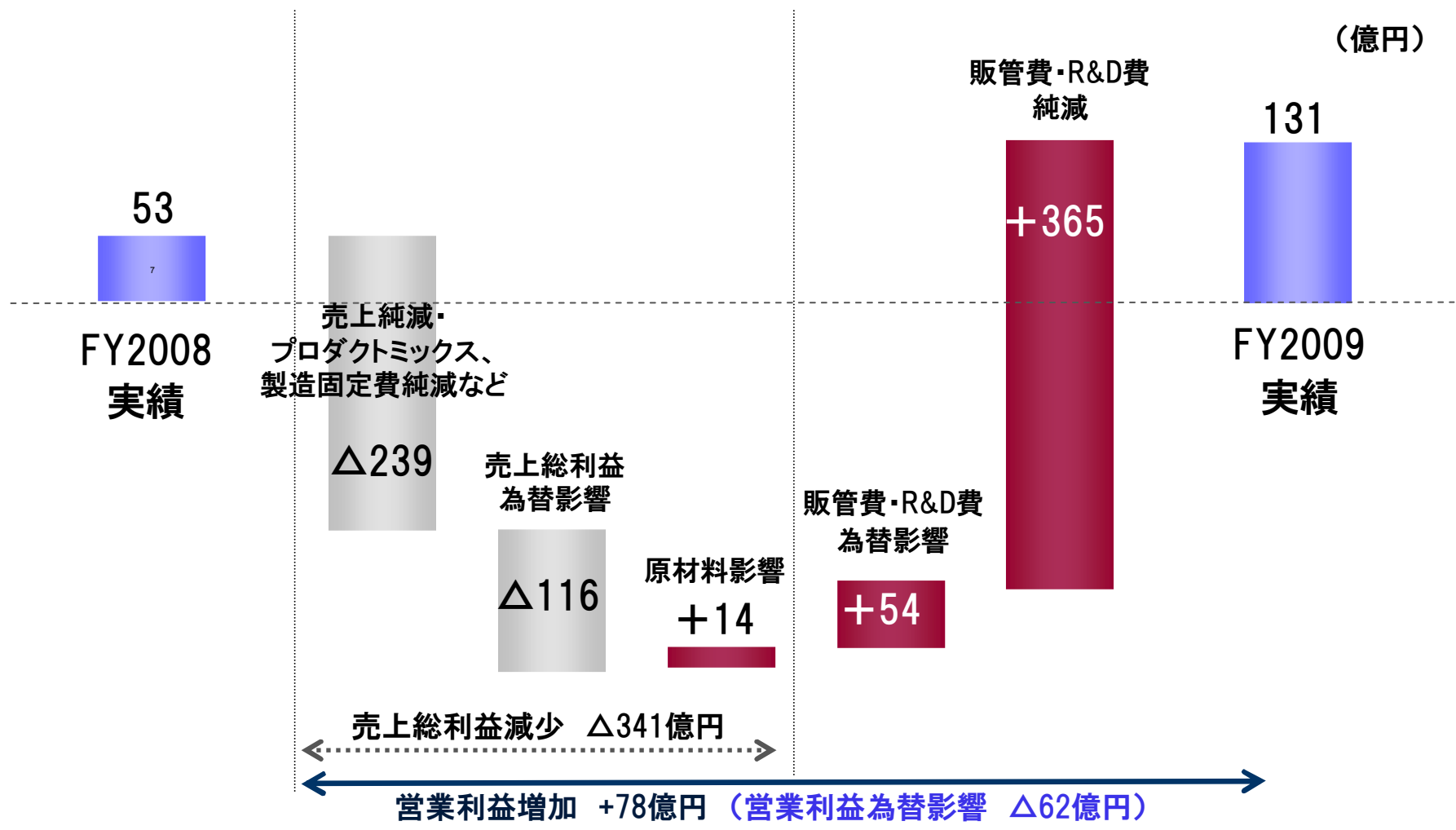
▶EMC・AEC・HCBが前期を大幅に上回る

(億円)

セグメント別	2010/3期	2009/3期	前回見通し (2010/1)	前期比	前回 見通し比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	139	182	120	△23.5%	+15.8%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	67	42	70	+59.6%	△3.7%
自動車用電子部品事業 (AEC)	17	△71	14	-	+23.6%
社会システム事業 (SSB)	27	52	25	△48.9%	+6.2%
健康・医療機器事業 (HCB)	71	48	71	+48.0%	△0.6%
その他	△70	△73	△68	-	-
消去調整他	△120	△126	△132	-	-
合計	131	53	100	+144.9%	+30.7%

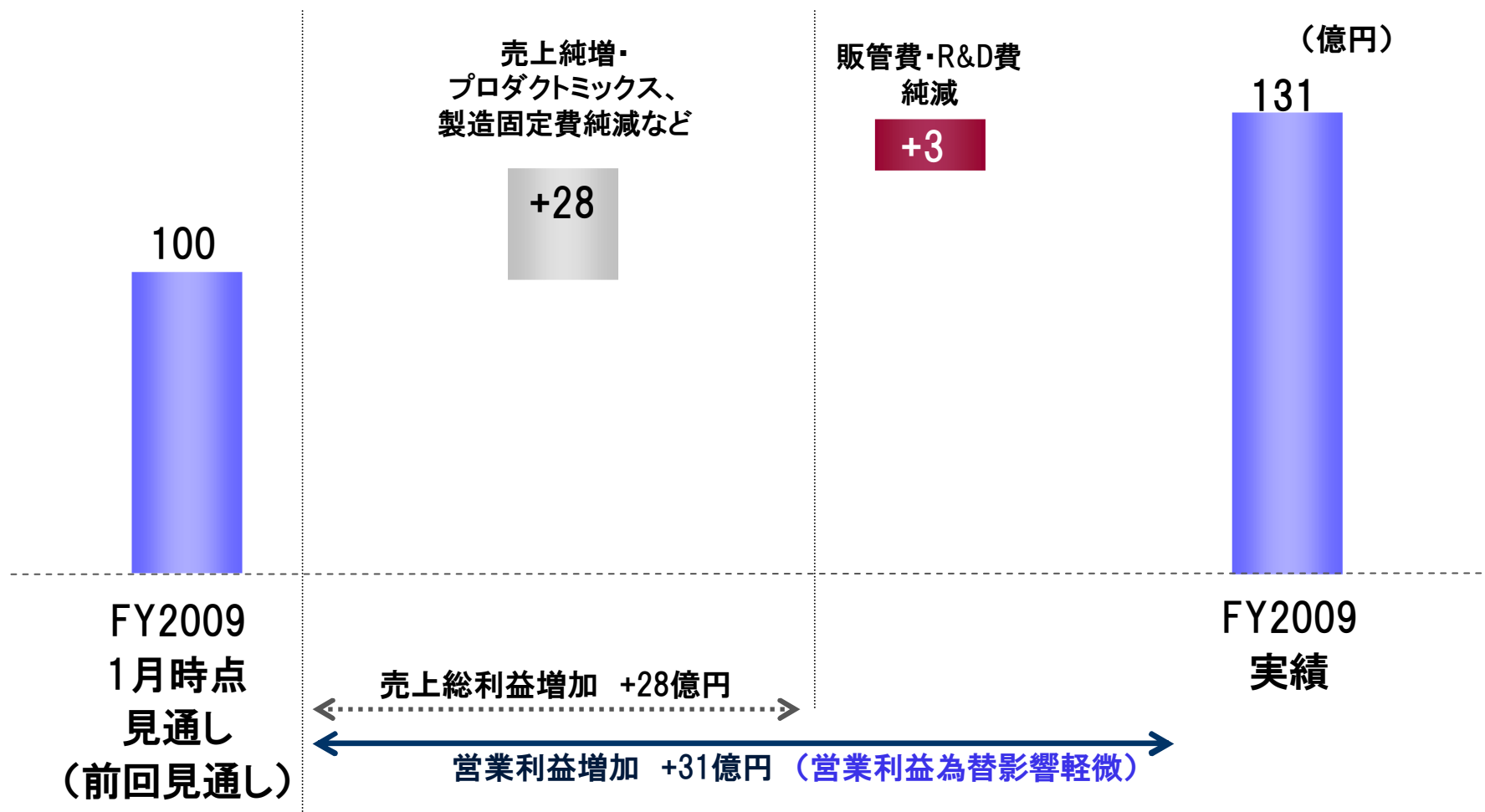
連結営業利益差異分析(前年比)

➤ 売上減と為替影響による利益減少を、緊急対策(固定費および変動費の削減)により補完



連結営業利益差異分析【前回見通し比(2010年1月)】

➤ 売上増や緊急対策(固定費および変動費の削減)の成果により前回見通しを上回る



緊急対策の結果 / 経費削減・投資抑制・在庫削減

- ▶ 緊急対策は計画以上の進捗
- ▶ 通期で600億円以上のPL改善と、約250億円のキャッシュフロー創出を実施

利益の創出(緊急対策)などによる2009年度のPL改善

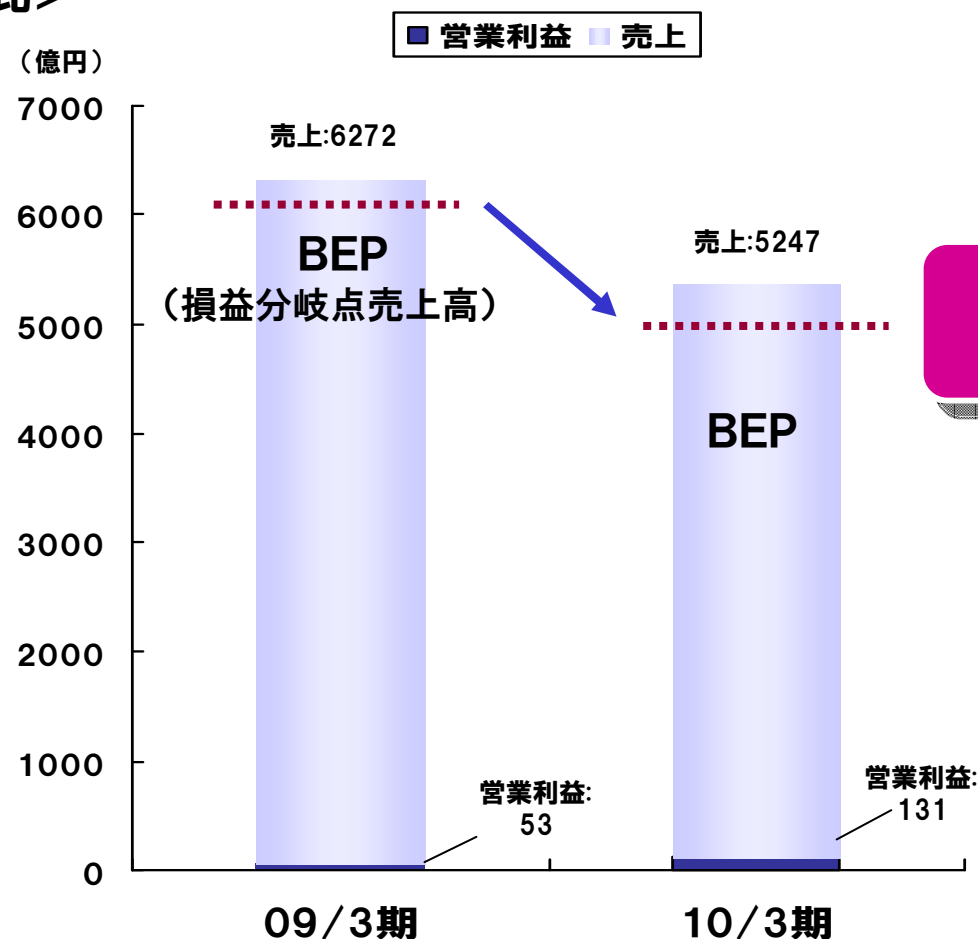
		年間削減目標額 (2009/3期比)	2010/3期削減額 (2009/3期比)	目標達成率 (2009/3期比)
変動費(削減額)		約50億円	約50億円	ほぼ計画通り
固定費	製造固定費	約550億円	約580億円	計画を上回る
	販管費			
	R&D費			
合計		約600億円	約630億円	—

キャッシュフローの創出(2009年度のキャッシュフロー改善項目)

削減項目		削減額目標 (年間)	2010年3月期末の進捗
在庫削減	在庫削減	約150億円	削減額: 71億円(売上増による削減額の減少)
投資抑制	新規設備投資抑制	約100億円	削減額: 167億円(投資抑制により年間計画を大幅に上回る)
合計		約250億円	238億円

➤ 固定費削減などにより、BEP(損益分岐点売上高)を大幅改善

<BEPの前年同期比>



BEP前年同期比
約20%改善

工場自動化用制御機器事業(IAB)

- 国内では、自動車・電子部品・半導体業界の生産回復により、センサ等を中心に改善傾向
- 海外では、特に中国で内需拡大に伴う生産稼働率の上昇や設備投資の増加により継続的な回復が見られる

IAB売上高	2010/3期	2009/3期	前回見通し (2010/1)	前期比	(億円)
					前回 見通し比
国内	935	1,255	915	△25.5%	+2.1%
海外	1,127	1,465	1,125	△23.0%	+0.2%
北米	189	316	190	△40.3%	△0.7%
欧州	512	707	520	△27.6%	△1.5%
アジア	168	174	155	△3.7%	+8.2%
中華圏	255	257	255	△0.9%	+0.1%
直接貿易	3	10	5	△65.0%	△31.4
合計	2,062	2,720	2,040	△24.2%	+1.1%
					前回見通し差
営業利益	139	182	120	△23.5%	+15.8%
営業利益率	6.7%	6.7%	5.9%	0.0P	+0.8P

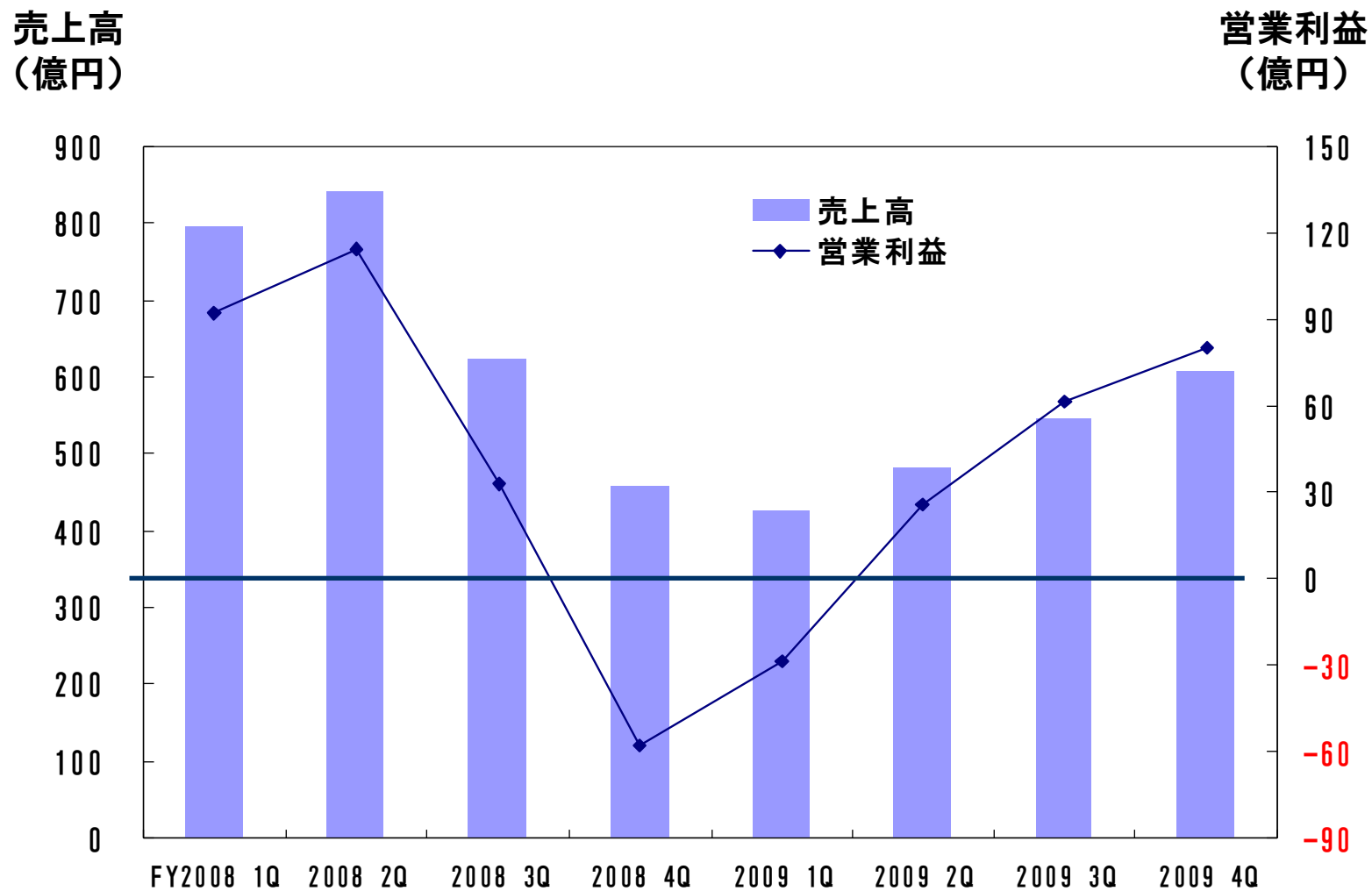


プログラマブルコントローラ



視覚センサ

工場自動化用制御機器事業(IAB) / 売上高・営業利益推移



- ▶国内では、産業機器向け需要が回復傾向
- ▶海外では、特に中国・東南アジアで民生用の家電用リレー・携帯電話用入カデバイス等の需要が回復

(億円)

EMC売上高 (新セグメント)	2010/3期	2009/3期	前回見通し (2010/1)	前期比	前回 見通し比
国内	223	256	228	△12.7%	△2.0%
海外	484	509	483	△5.0%	+0.1%
北米	73	86	73	△15.2%	△0.5%
欧州	*117	92	118	+27.4%	△0.4%
アジア	76	84	74	△9.4%	+3.1%
中華圏	198	209	197	△5.1%	+0.5%
直接貿易	19	38	21	△49.5%	△8.1%
合計	707	765	711	△7.6%	△0.5%
					前回見通し差
営業利益	67	42	70	+59.6%	△3.7%
営業利益率	9.5%	5.5%	9.8%	+4.0P	△0.3P

*欧州のリレー事業の一部をAECより移管



リレー

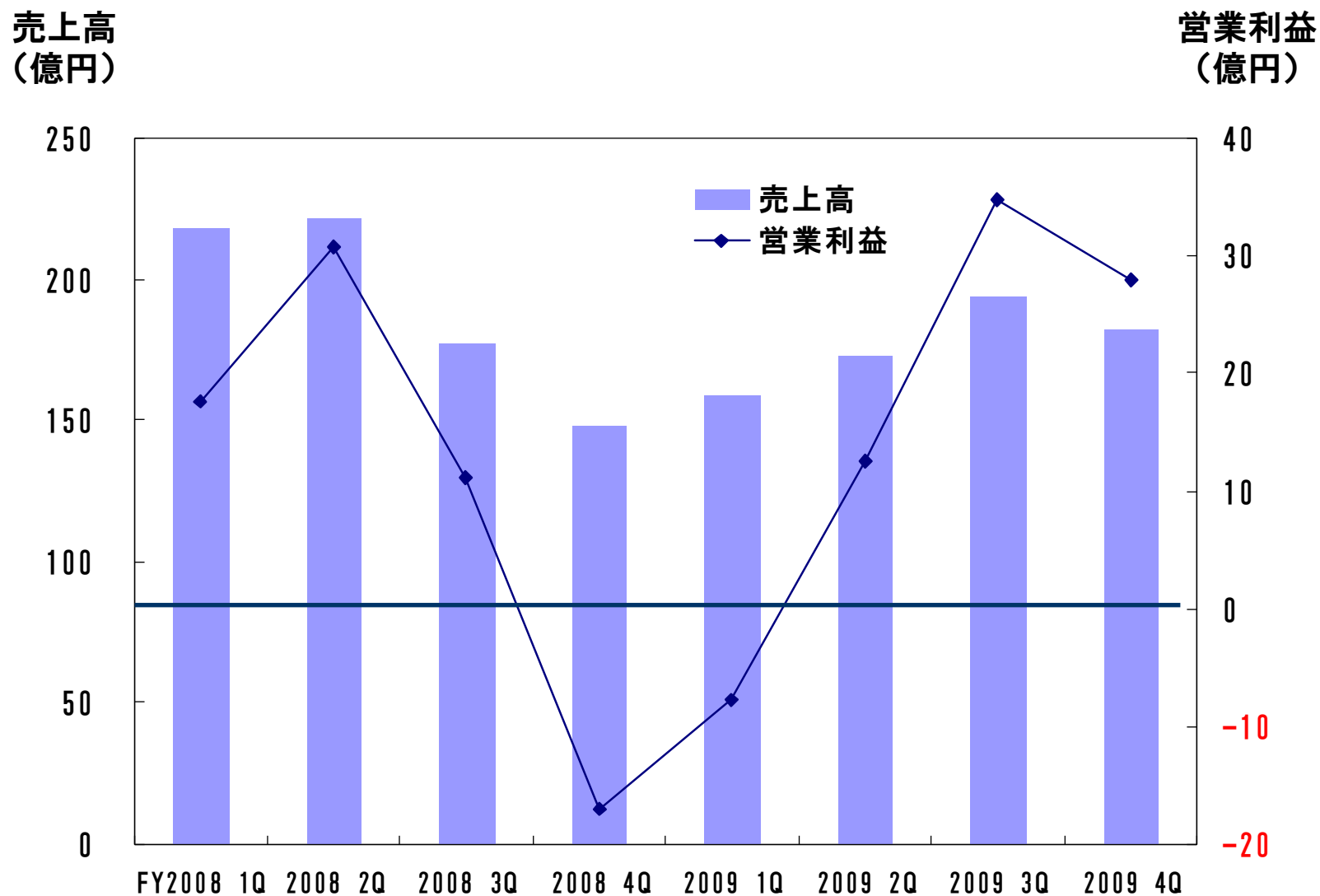


マイクロスイッチ



FPCコネクタ

家電・通信用電子部品事業(EMC) / 売上高・営業利益推移



自動車用電子部品事業(AEC)

- 国内・海外ともに自動車購買刺激政策の効果により、需要が回復
- 固定費削減、海外拠点の見直し等により、営業利益は第2四半期以降、黒字を継続

(億円)

AEC売上高 (新セグメント)	2010/3期	2009/3期	前回見通し (2010/1)	前期比	前回 見通し比
国内	239	250	244	△4.4%	△2.0%
海外	513	571	491	△10.2%	+4.4%
北米	240	279	232	△13.9%	+3.5%
欧州	* 20	90	19	△77.7%	+5.7%
アジア	131	125	126	+4.7%	+3.8%
中華圏	63	47	60	+32.0%	+4.5%
直接貿易	59	30	54	+96.3%	+9.3%
合計	752	821	735	△8.5%	+2.3%
					前回見通し差
営業利益	17	△ 71	14	-	+23.6%
営業利益率	2.3%	-	1.9%	-	+0.4P

* 欧州のリレー事業の一部をEMCIに移管

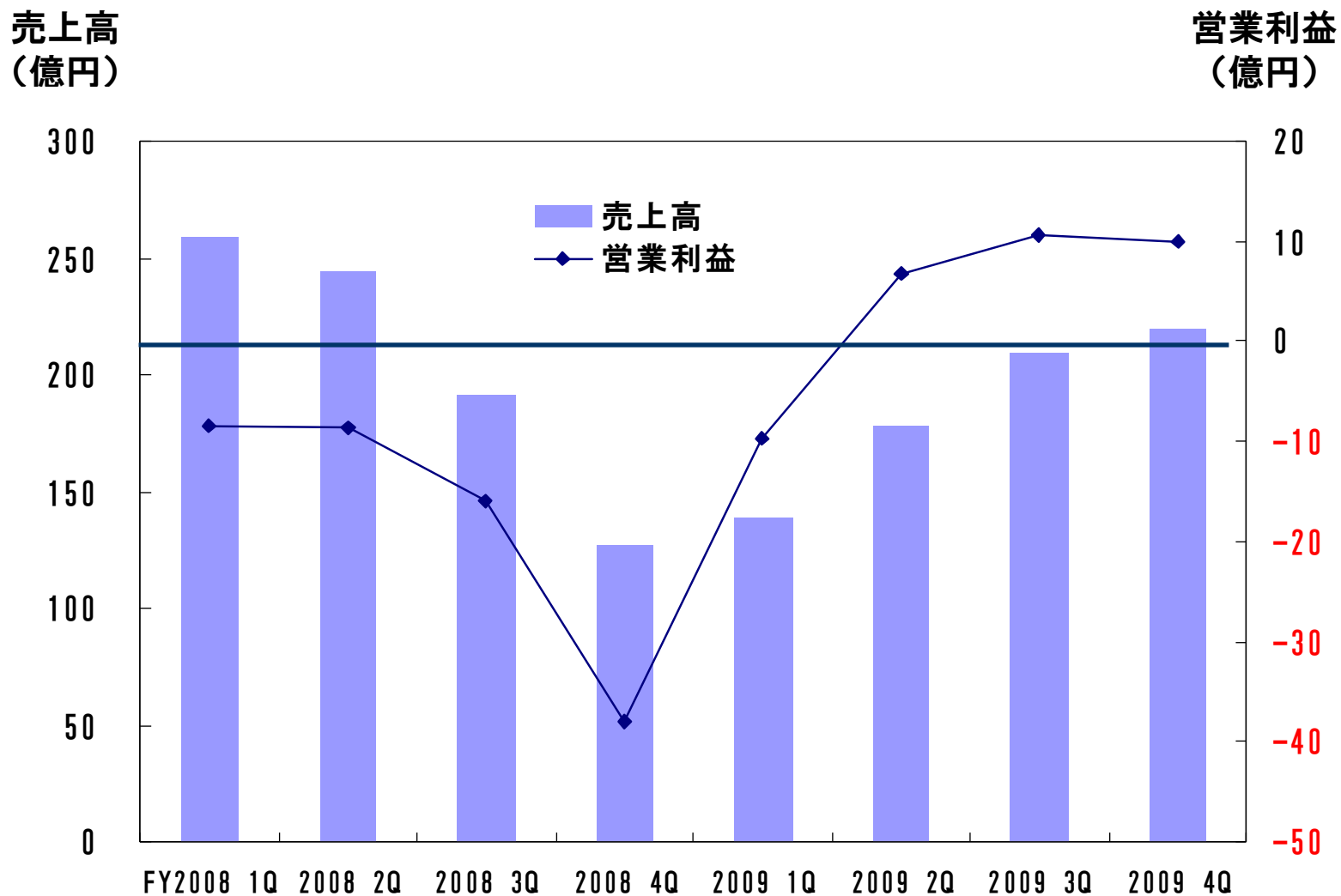


パッシブエントリーシステム



電動パワーステアリング
コントローラ

自動車用電子部品事業(AEC) / 売上高・営業利益推移



社会システム事業(SSB)

- 駅務システム事業では、鉄道事業者の設備投資抑制を受け苦戦
- 需要低迷の中で固定費圧縮を進め、黒字を維持

SSB売上高 (新セグメント)	(億円)				
	2010/3期	2009/3期	前回見通し (2010/1)	前期比	前回 見通し比
国内	575	707	561	△18.7%	+2.5%
海外	5	16	6	△70.7%	△21.7%
北米	0	0	0	-	-
欧州	0	0	0	-	-
アジア	0	0	0	-	-
中華圏	0	0	0	-	-
直接貿易	5	16	6	△70.1%	△21.7%
合計	580	723	567	△19.8%	+2.3%
					前回見通し差
営業利益	27	52	25	△48.9%	+6.2%
営業利益率	4.6%	7.2%	4.4%	△2.6P	△0.2P

自動改札機



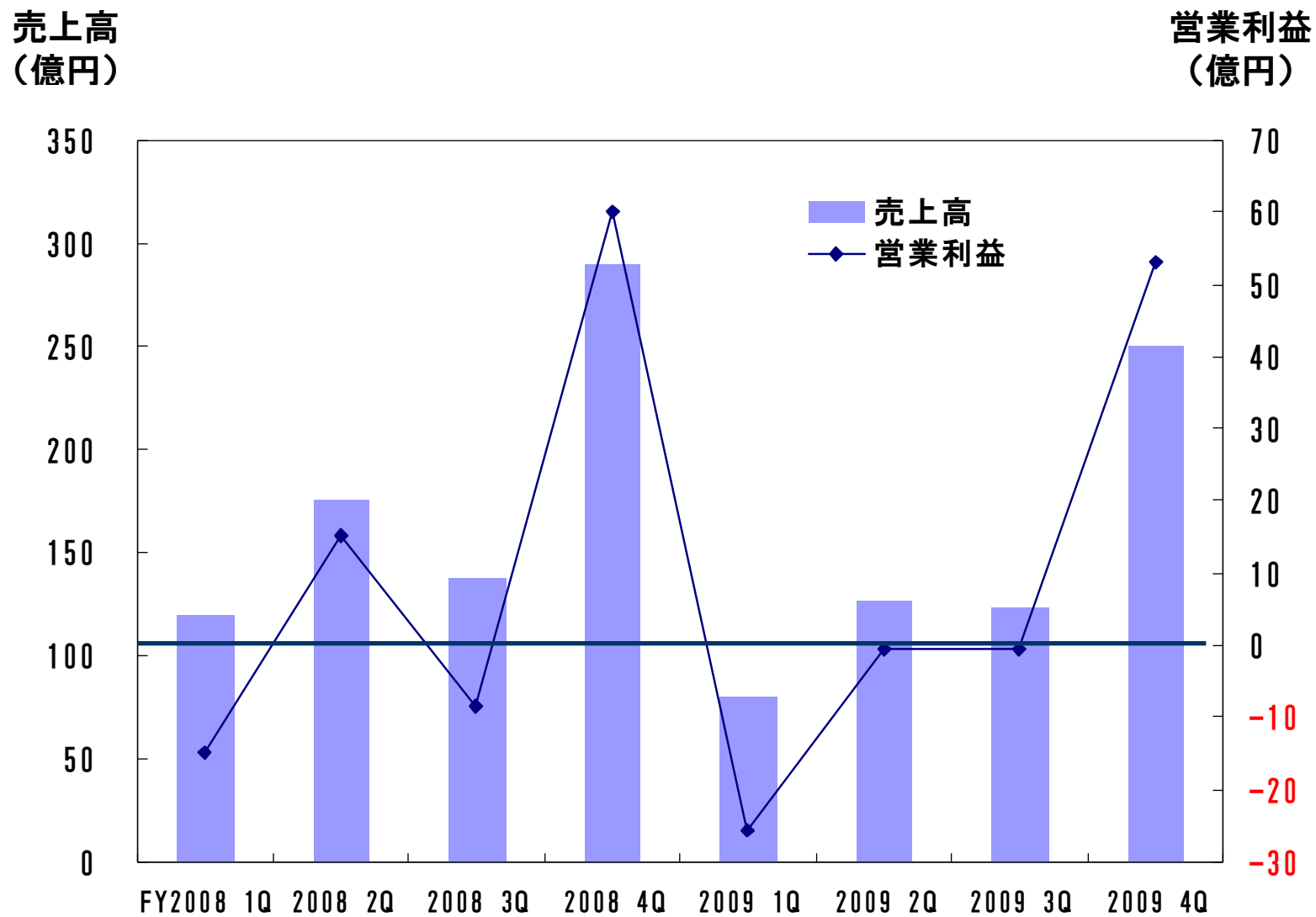
交通管制システム



セキュリティシステム



社会システム事業(SSB) / 売上高・営業利益推移

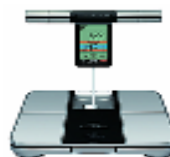


- ▶国内では、血圧計や電子体温計を中心に健康機器への需要が堅調に推移
- ▶海外では、特に中国・アジアにおいて健康管理意識の高まりが継続

HCB売上高 (新セグメント)	(億円)				
	2010/3期	2009/3期	前回見通し (2010/1)	前期比	前回 見通し比
国内	296	281	303	+5.2%	△2.4%
海外	338	355	337	△4.8%	+0.2%
北米	108	120	104	△10.3%	+3.4%
欧州	127	143	127	△11.1%	△0.2%
アジア	23	21	23	+9.3%	△0.7%
中華圏	74	67	76	+9.7%	△2.8%
直接貿易	7	4	7	+69.3%	△3.3%
合計	634	636	640	△0.4%	△1.0%
					前回見通し差
営業利益	71	48	71	+48.0%	△0.6%
営業利益率	11.1%	7.5%	11.1%	+3.6P	0.0P



デジタル自動血圧計



体重体組成計

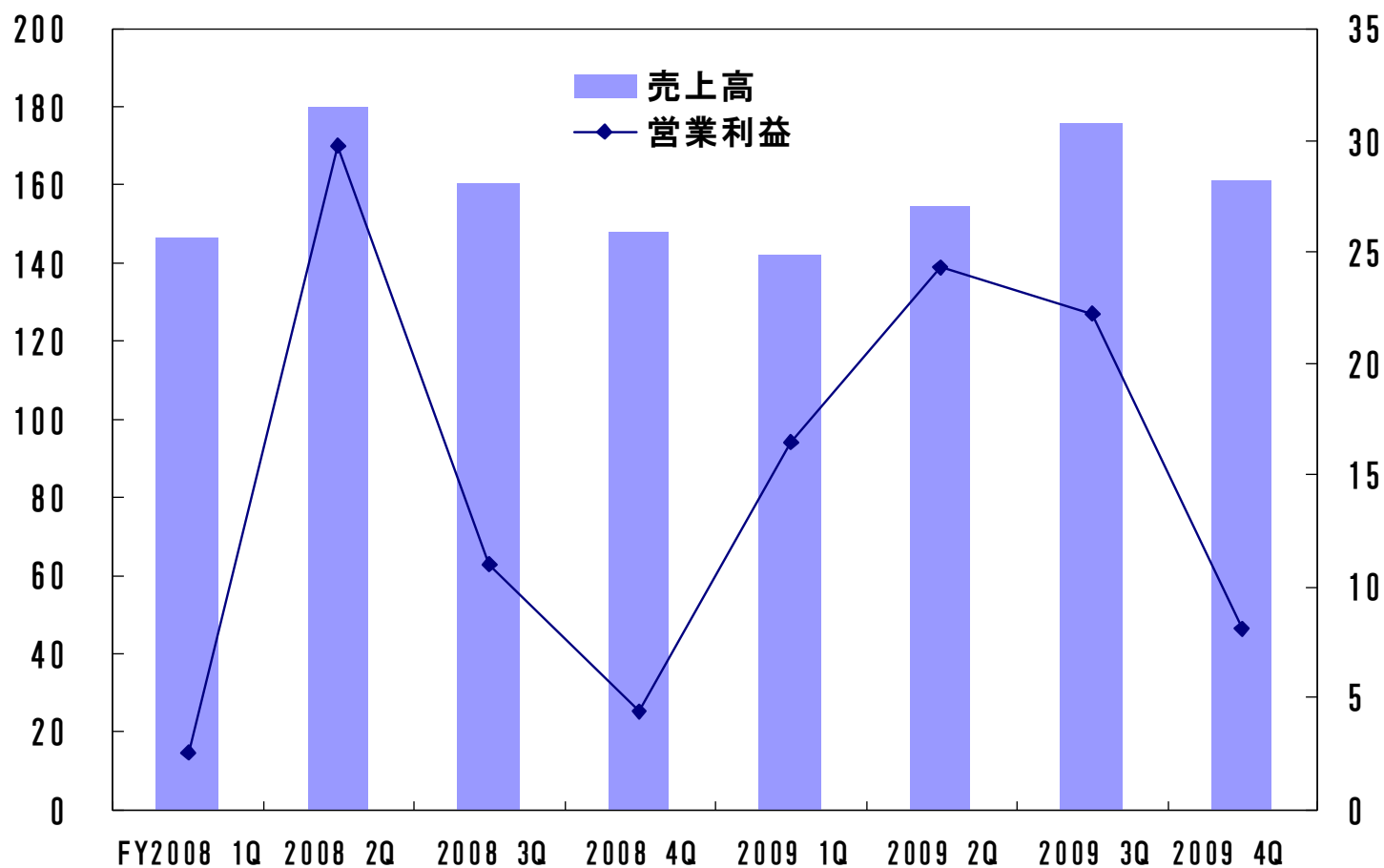


血圧脈波検査装置

健康・医療機器事業(HCB) / 売上高・営業利益推移

売上高
(億円)

営業利益
(億円)



その他(新セグメント)

➤新規事業として、探索・育成を継続する事業をその他セグメントにて表記

(億円)

その他売上高 (新セグメント)	2010/3期	2009/3期	前回見通し (2010/1)	前期比	前回 見通し比
国内	224	305	232	△26.5%	△3.3%
海外	189	197	193	△4.3%	△2.2%
北米	0	0	0	-	-
欧州	0	0	0	-	-
アジア	0	0	0	-	-
中華圏	175	170	180	+3.0%	△2.6%
直接貿易	13	27	13	△50.2%	+3.5%
合計	413	502	425	△17.8%	△2.8%
					前回見通し差
営業利益	△ 70	△ 73	△ 68	-	-
営業利益率	-	-	-	-	-



小型液晶用バックライト



MEMSマイクロフォン



e-watching



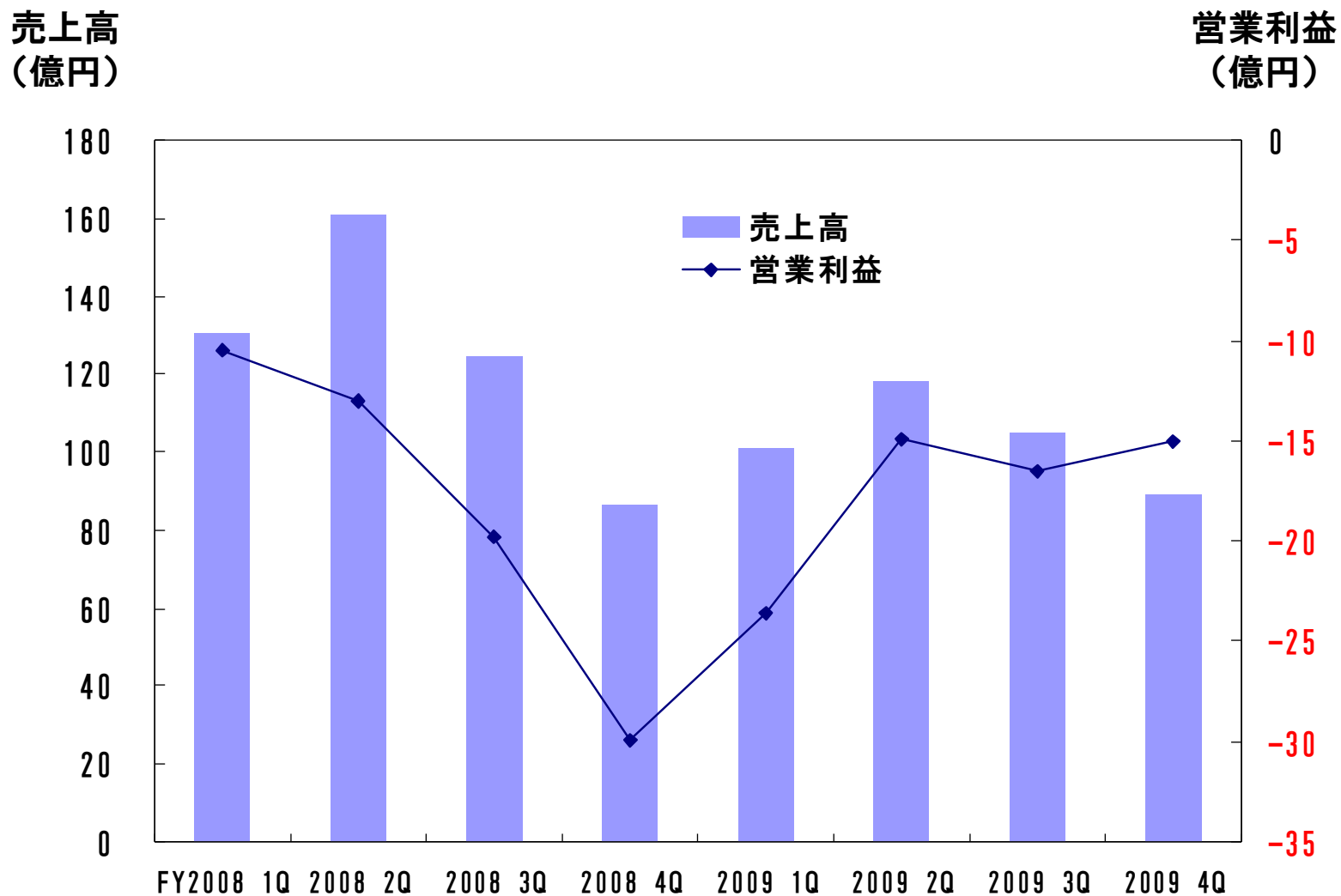
PCボード

その他(新セグメント) 事業別売上高

- ▶ バックライト事業は、音楽プレーヤーの需要減少等により低調に推移
- ▶ マイクロデバイス事業は、液晶関連向けファンドリ案件の増加等により回復傾向

(億円)

その他売上高 (新セグメント)		2010/3期	2009/3期	前回見通し (2010/1)	前期比	前回 見通し比
旧ECBより移管	バックライト事業(OPT)	318	355	328	△10.4%	△3.0%
	マイクロデバイス事業(MD)	24	29	22	△18.8%	+7.5%
	小計	342	384	350	△11.0%	△2.4%
旧消去調整より移管	環境事業・電子機器事業	71	118	75	△39.7%	△4.8%
合計		413	502	425	△17.8%	△2.8%



連結貸借対照表

- ▶ 短期借入金返済、長期借入金の短期借入金へのシフトにより借入金総額は減少
- ▶ 自己資本比率は前期末の55.4%から57.5%に増加

連結B/S	2010年3月	2009年3月
資産の部	5,323	5,383
現預金	517	466
売上債権	1,237	1,110
在庫	777	847
繰延税金、その他流動資産	327	337
固定資産	1,230	1,325
投資その他資産	1,235	1,298
負債の部	2,251	2,383
短期借入金	369	335
長期借入金	13	214
支払い手形及び買掛金等	689	582
退職給付引当金	670	804
その他負債	510	448
純資産の部	3,071	3,000
資本金・その他剰余金等	4,034	4,036
その他包括利益(損失)累計額	△526	△607
自己株式	△445	△445
非支配持分	8	16
負債及び純資産合計	5,323	5,383

➤ 設備投資と在庫削減によりフリーキャッシュフローは大幅に増加

(億円)

連結CF	2010年3月	2009年3月
営業活動によるキャッシュフロー	428	314
投資活動によるキャッシュフロー	△186	△406
FCF	242	△92
財務活動によるキャッシュフロー	△204	219
換算レート変動の影響	13	△66
現金及び現金同等物の増減額	51	60
四半期末の現金残高	517	466
設備投資	195	368
減価償却費	270	335

※2010年3月の設備投資は、連結キャッシュフロー計算書の資本的支出及び関連する債務を調整したもの

エグゼクティブ・サマリー	P.3
2010年3月期決算報告	P.4
2011年3月期見通し	P.30
構造改革の状況と今後の取り組み	P.38
ご参考資料	P.45

重点施策

- 運営構造改革を加速させる
- 「強固な収益構造づくり」と「再成長へのギアチェンジ」に取り組む

外部環境

- 中国などの新興国は引き続き堅調に推移すると予測
- 国内は、海外経済の緩やかな回復を背景に、輸出増加の景気下支えを期待する
- 半導体・電子部品・自動車業界を中心とした設備投資は緩やかな回復が継続

見通し前提

- 為替 : USD・・・90円、 EUR・・・125円
- 原材料 : 銀・・・56,000円/kg、 銅・・・750円/kg

■ 為替レート1円変動による影響額

為替	売上	営業利益
USD	約17億円	約7億円
ユーロ	約6億円	約3億円

■ 銅価格100円/kgの変動による影響額

原材料	営業利益
銅	約7.5億円

■ 銀価格1,000円/kgの変動による影響額

原材料	営業利益
銀	約0.5億円

※上記はいずれも通期に対する影響額

工場自動化用 制御機器事業 (IAB)

➤半導体・電子部品・自動車等、製造業の設備投資は緩やかな回復

家電・通信用 電子部品事業 (EMC)

➤業務・民生用機器・車載部品業界を取り巻く環境は、新興国中心に引き続き回復

自動車用電子 部品事業 (AEC)

➤新興国では、内需刺激策効果が継続寄与し、小型車を中心に需要増を見込む

社会システム 事業 (SSB)

➤鉄道業界は引き続き設備投資抑制の見込み

健康・医療機器 事業 (HCB)

➤国内や主要国では、個人消費の停滞が継続するが、新興国では、経済成長などにより健康機器の需要は拡大する見込み

その他

➤環境対応需要(特にCO2削減)のニーズ増加

▶ 売上は約10%増加、利益は倍増以上を見込む

(億円)

全社PL	2011/3期 通期見通し	2010/3期 実績	前期比
売上高	5,800	5,247	+10.5%
売上総利益	2,175	1,843	+18.0%
販管費	1,415	1,334	+6.1%
R&D費	430	378	+13.6%
営業利益	330	131	+152.4%
営業外費用	0	29	—
税引前純利益	330	102	+223.7%
当期純利益	200	35	+468.5%
			前期差
USDレート (円)	90.0	92.9	△2.9
EURレート (円)	125.0	130.3	△5.3

連結売上高見通し(セグメント別)

▶各セグメントでの売上回復を見込む

(億円)

セグメント別	2011/3期見通し		2010/3期実績
	売上高	前期比	売上高
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	2,460	+19.3%	2,062
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	760	+7.5%	707
自動車用電子部品事業 (AEC)	780	+3.8%	752
社会システム事業 (SSB)	640	+10.4%	580
健康・医療機器事業 (HCB)	645	+1.8%	634
その他	460	+11.3%	413
消去調整他	55	△44.8%	99
合計	5,800	+10.5%	5,247

連結営業利益見通し(セグメント別)

- 全社の営業利益は、前期に比べ約150%増加
- 10年度より実施するグループ運営の見直し*により、セグメント別利益に変動あり

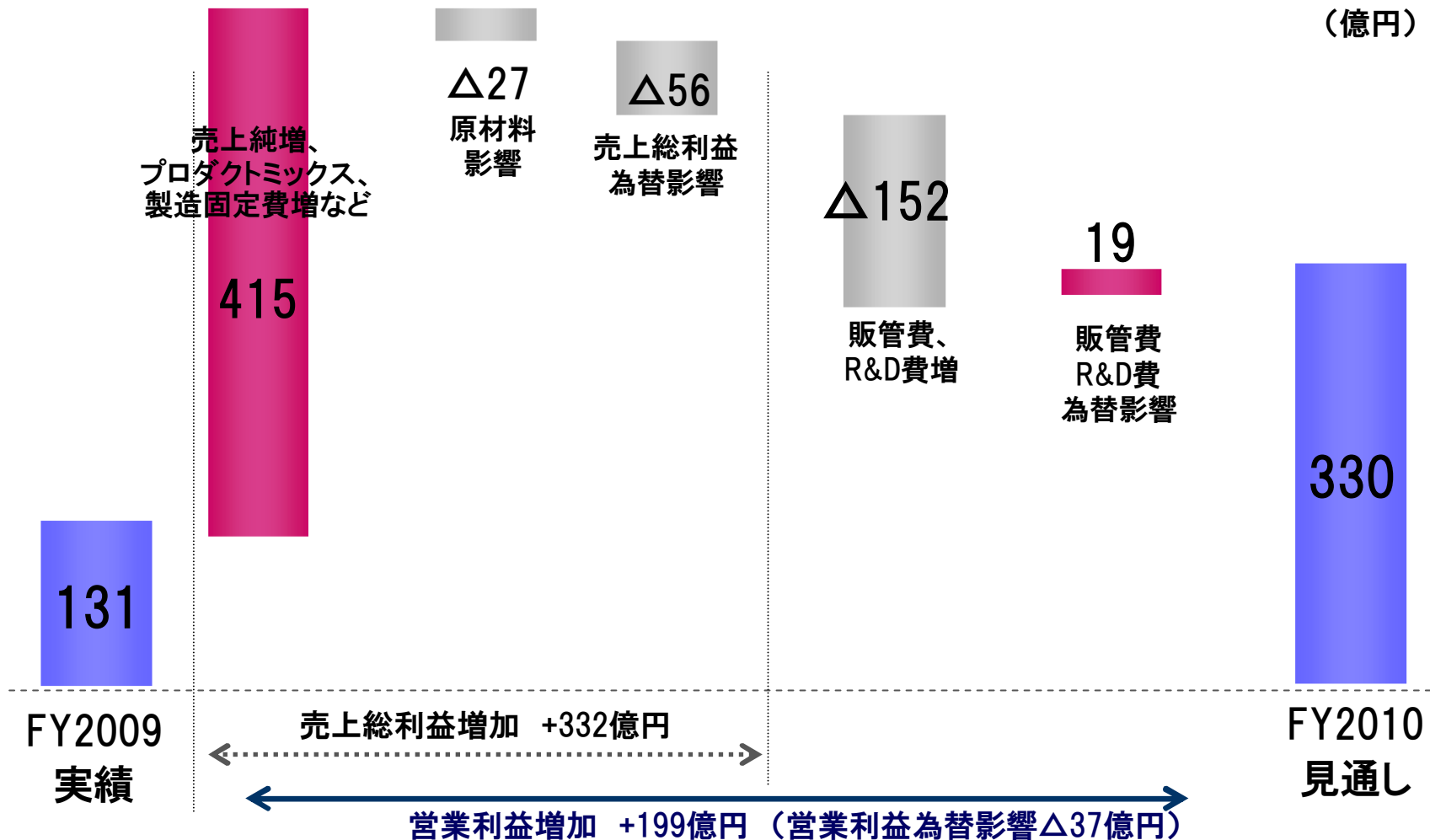
*グループ運営の見直し： 選択と集中を強化し、戦略的な資源配分を実行するために本社により資金を集中させる目的で、子会社およびカンパニーからの経営指導料等を改定

(億円)

セグメント別	2011/3期見通し		2010/3期 実績	(参考情報) 経営指導料等改定前	
	営業利益	前年同期比	営業利益	営業利益	前年同期比
工場自動化用制御機器事業 (IAB)	290	+108.6%	139	322	+131.7%
家電・通信用電子部品事業 (EMC)	70	+3.9%	67	82	+21.7%
自動車用電子部品事業 (AEC)	20	+15.5%	17	27	+56.0%
社会システム事業 (SSB)	20	△24.6%	27	37	+39.4%
健康・医療機器事業 (HCB)	60	△15.0%	71	70	△0.8%
その他	△60	—	△70	△53	—
消去調整他	△70	—	△120	△155	—
合計	330	+152.4%	131	330	+152.4%

連結営業利益差異分析(2010年3月期比)

▶ 原材料高騰や為替影響はあるものの、売上純増、プロダクトミックス改善により前年を大幅に上回る



設備投資、減価償却、研究開発費の見通し

- 設備投資…土地・建物の取得等の増加
- 減価償却…前年並み
- 研究開発…IABの汎用コンポ事業の強化等

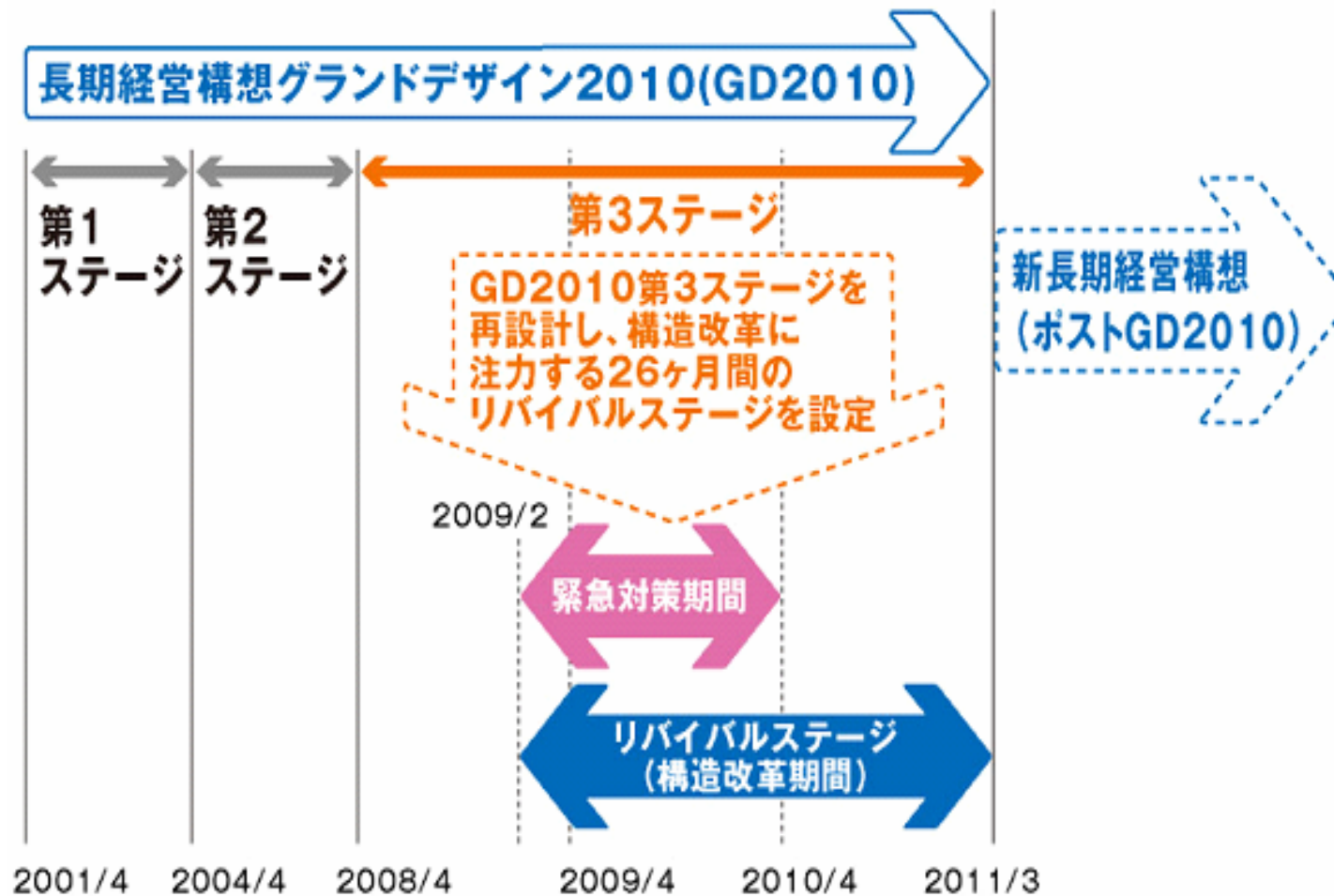
	2011/3期 見通し	2010/3期 実績	(億円) 前期比
設備投資	360	195	+84.4%
減価償却費	270	270	△0.1%
研究開発費	430	378	+13.6%

※2010年3月の設備投資は、連結キャッシュフロー計算書の資本的支出及び関連する債務を調整したもの

エグゼクティブ・サマリー	P.3
2010年3月期決算報告	P.4
2011年3月期見通し	P.30
構造改革の状況と今後の取り組み	P.38
ご参考資料	P.45

リバイバルステージ(構造改革)のスケジュール

➤2009年2月～2011年3月をリバイバルステージと位置づけ、構造改革を実行中



構造改革(リバイバルステージ)で取り組むこと

➤ 強固な収益構造づくりに加え、再成長へのギアチェンジに取り組む

構造改革 「強固な収益構造づくり」

1. 事業ドメイン改革

制御3事業(IAB、ECB、AEC)の再構築

- ・IAB: 事業のフロント・収益基盤の強化
- ・ECB(EMC): メカニカルコンポ事業の再強化
- ・AEC: 徹底した収益改善

2. 運営構造改革

- (1) 生産拠点の統廃合
- (2) 変動費構造改革
- (3) IT構造改革
- (4) 本社機能改革

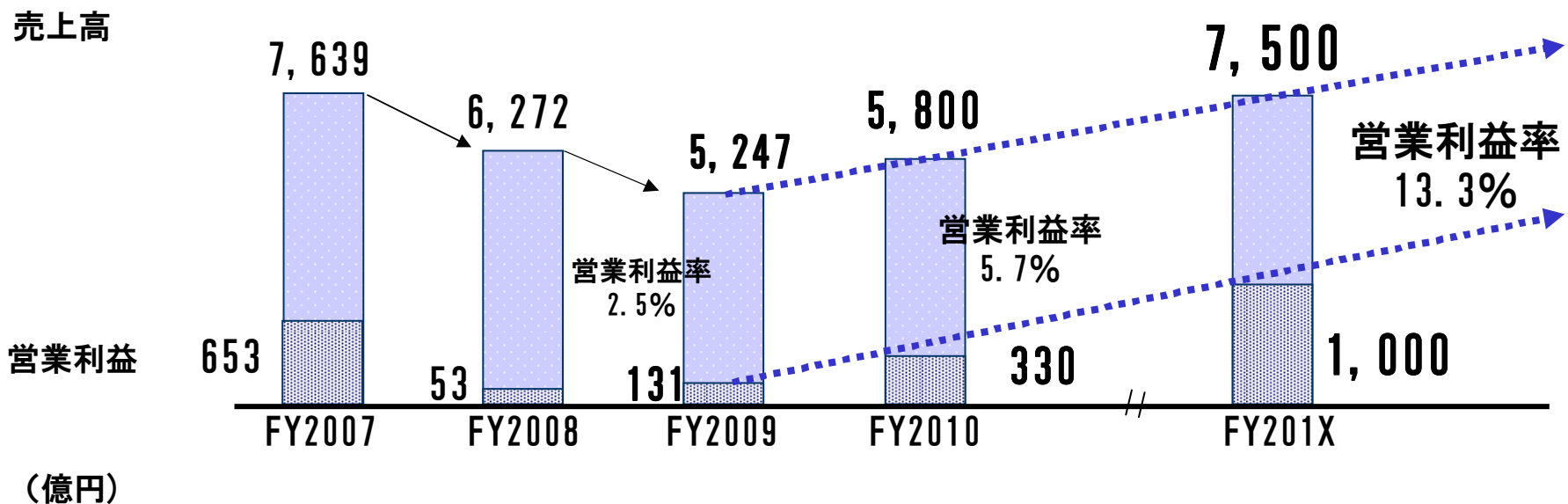
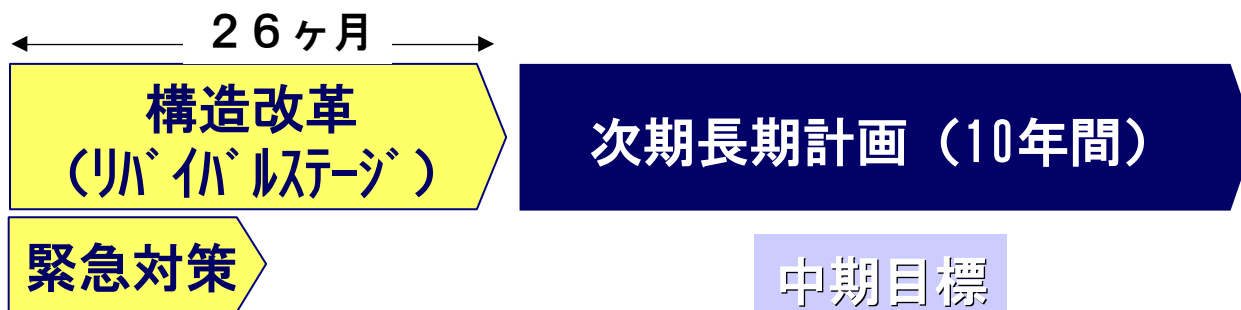
今までの構造改革に加え
取り組むこと



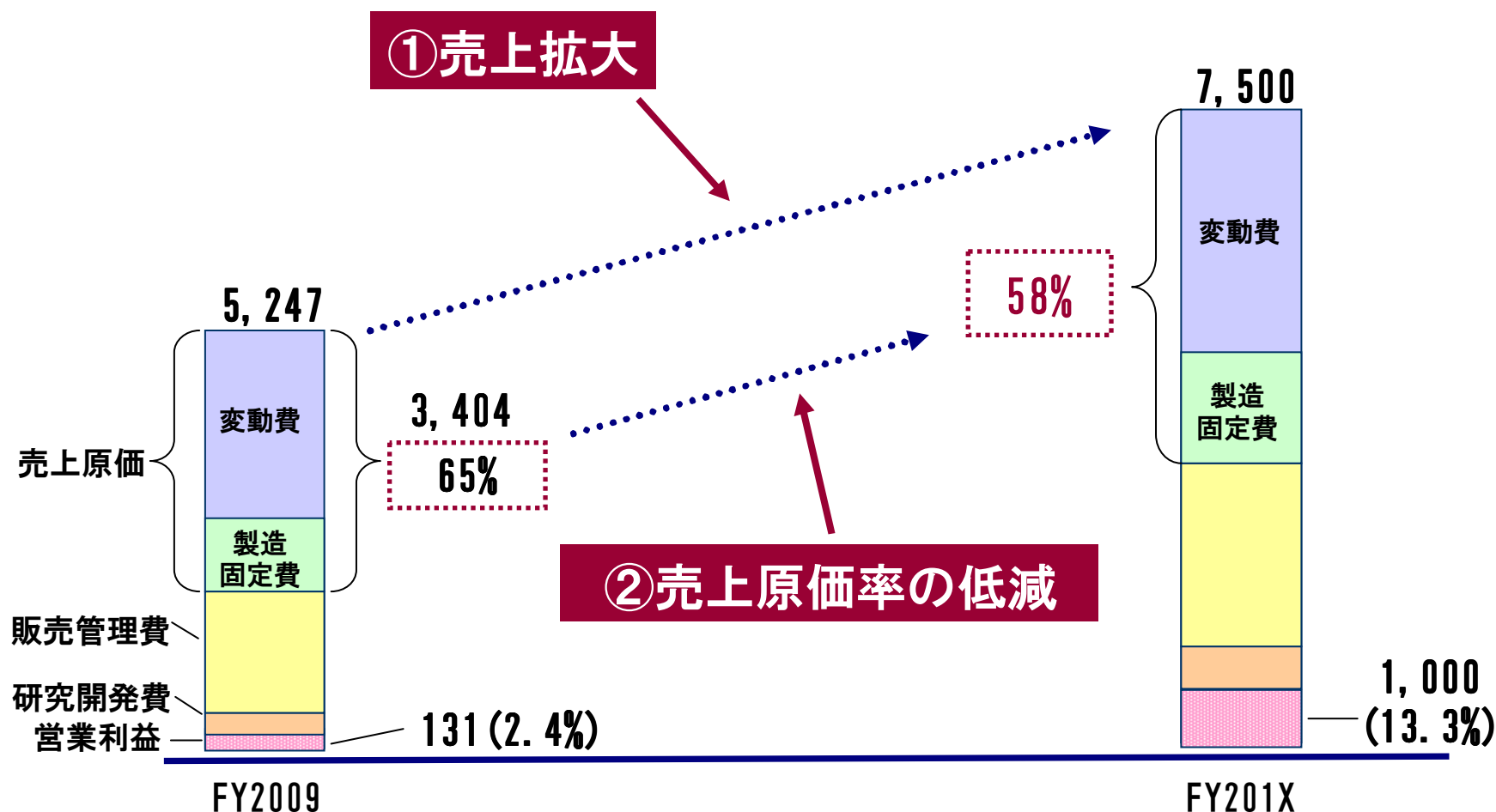
再成長へのギアチェンジ

中長期の目標

➤ 中期目標である売上高7,500億円・営業利益1,000億円が達成できる
PL構造を目指し、2010年度は、構造改革を加速する



➤ 中長期の目標達成に向け「売上拡大」と「売上原価率の低減」を目指す



売上高7,500億円に向けて

先進国向け既存事業の強化

約20億円の投資

- ①国内、先進国でのフロント強化
 - ・国内販売チャネルの強化による市場占有率の向上
- ②主力商品の強化
 - ・センサ・PLC・リレーなど

新興国への注力

約30億円の投資

- ①新興国でのフロント強化(IAB・HCB)
 - ・中国、インドなどの販売力の強化
- ②新興国向け商品の開発
 - ・新興国向け汎用コンポの増強
(センサ・電源・PLCなど)
 - ・新興国向けヘルスケア商品の増強

事業・エリアの
選択と集中による
再成長へのギアチェンジ

環境事業への注力

約10億円の投資

- ①主力環境商品の強化
 - ・パワコンなど
- ②次世代環境商品の開発
 - ・パワコン、パワエレデバイスなど
- ③環境関連実証実験への取組み強化

売上原価率58%を目指して

*1
～主に、LCC部材×プロセス×拠点の3点セットで汎用コンポの原価構造から革新していく～

材料・部品のCMO化^{*2}

*2.CMO...Comon/Module/Option

- ①LCC^{*1}(主に中国)材料・部品の採用と現地調達
- ②原材料・市販部品の標準化
- ③コア部品の内作化

ものづくりプロセスの強化

*1.LCC...ローコスト・カントリー

- ①LCC^{*1}(主に中国)材料・部品に適した工程・工法の開発
- ②省材料工程・工法の開発(MFCA)
- ③設備のCMO(標準化と流用促進)

ITによる経営の見える化

CMOによる
強固な収益構造作り

約10億円の投資

QCD向上への拠点・運営構造の確立

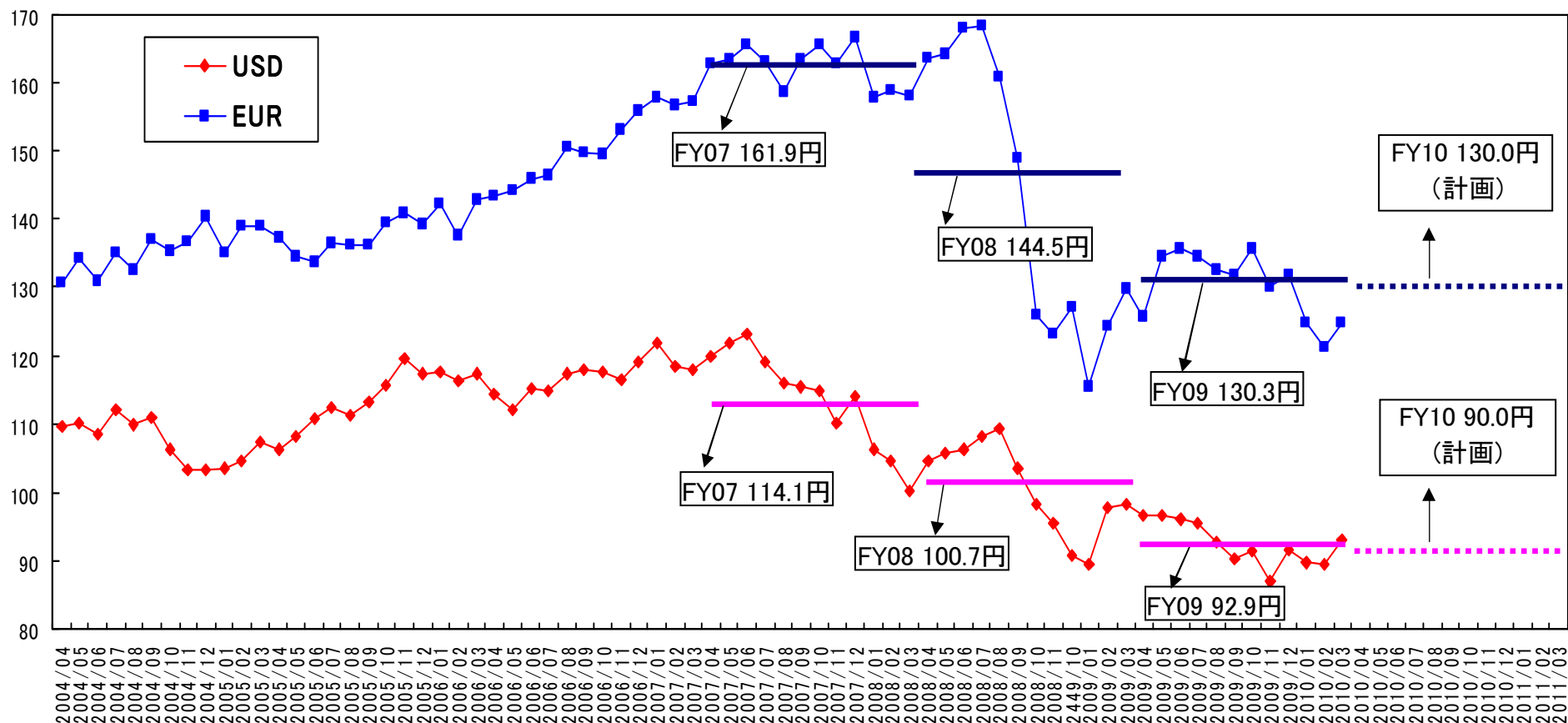
- ①LCC^{*1}(主に中国)生産
- ②3層生産構造の確立
・マザー・サテライト・パートナー
- ③グローバルSCMの推進

エグゼクティブ・サマリー	P.3
2010年3月期決算報告	P.4
2011年3月期見通し	P.30
構造改革の状況と今後の取り組み	P.38
ご参考資料	P.45

為替レートの推移(ドル、ユーロ)

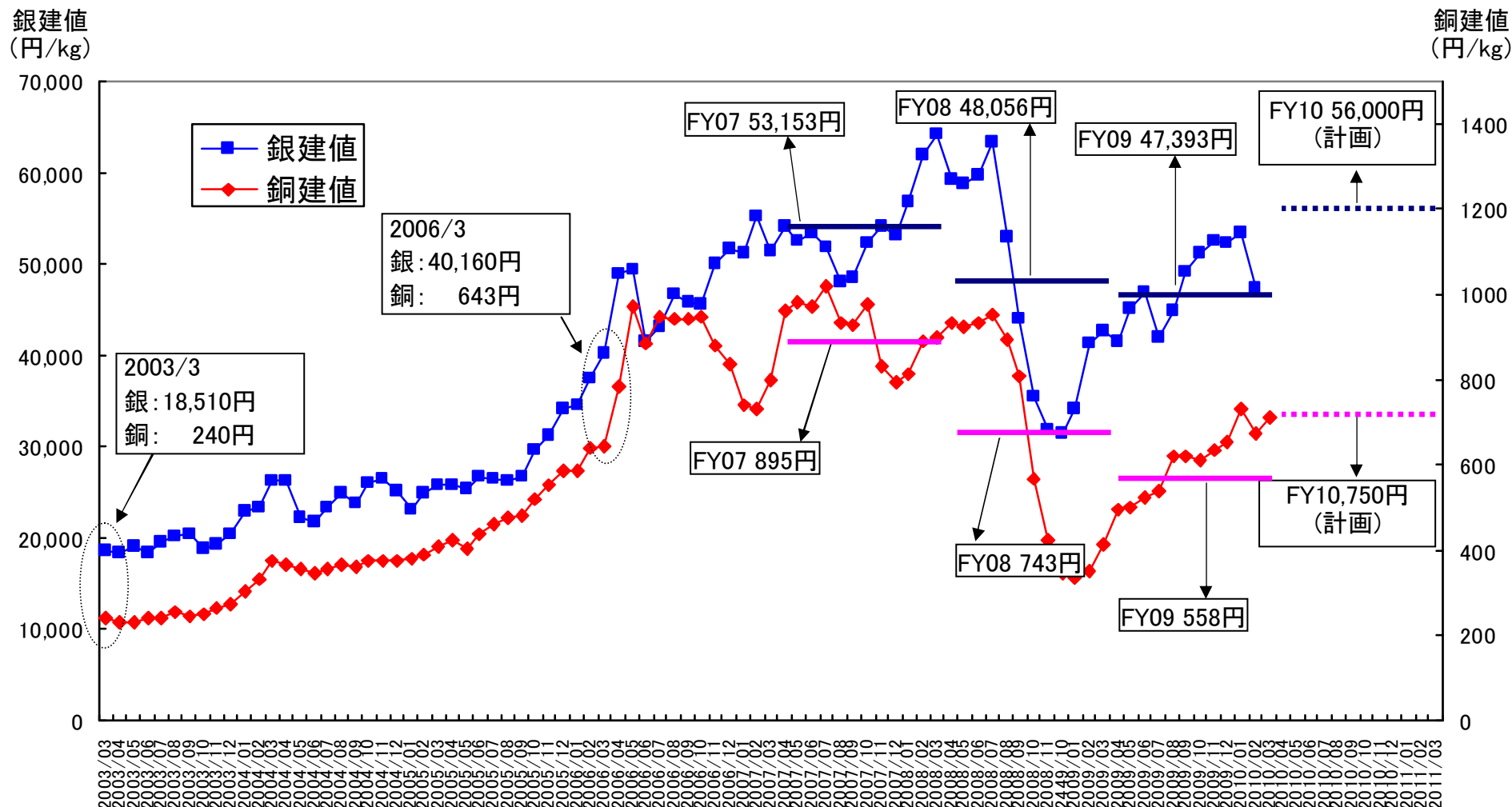
➤ドル・ユーロとも2009年度は大幅に円安で推移

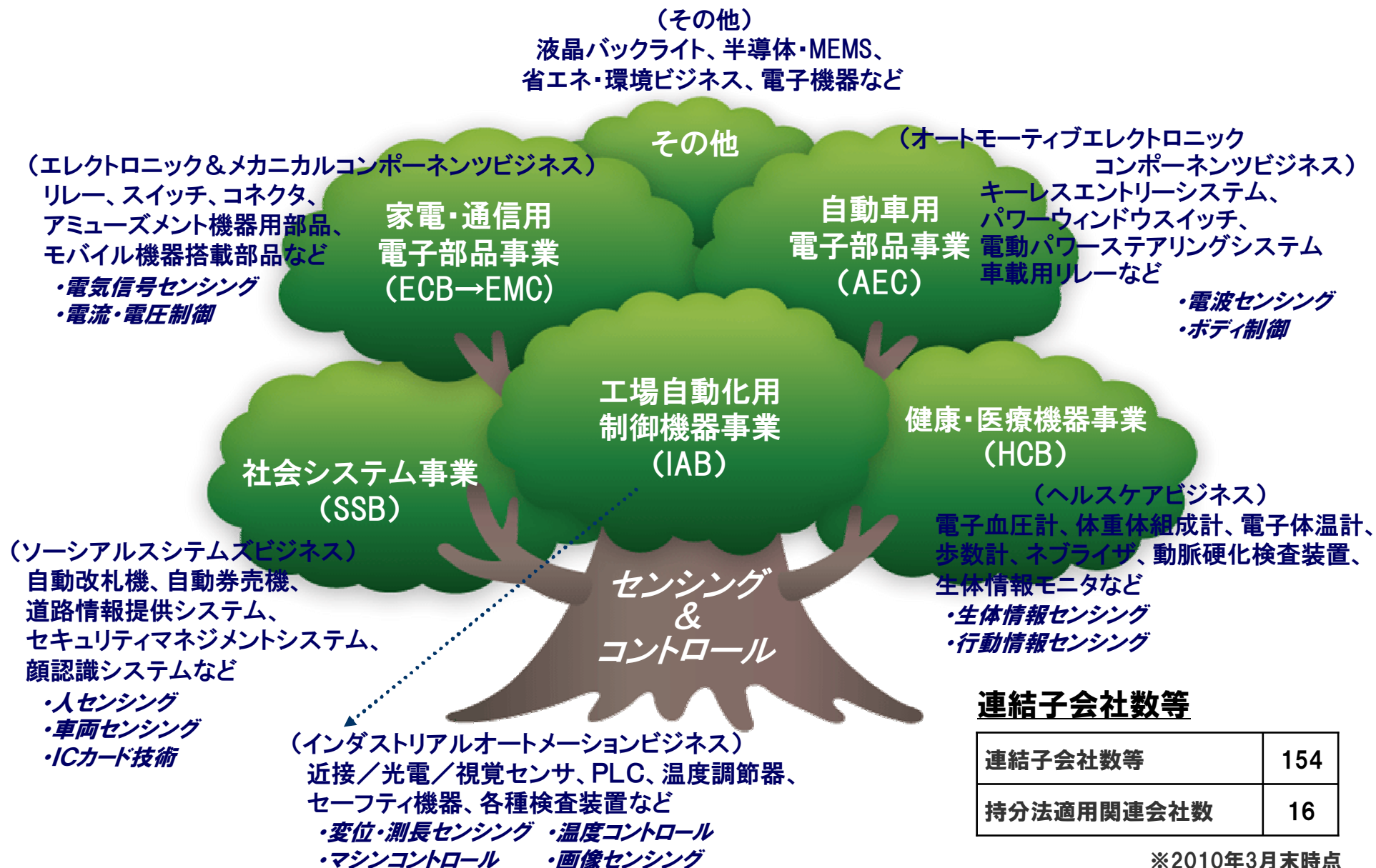
USD/EUR
(円)



原材料価格の推移

➤ 2009年度の建値は、銅は前年度比下落するも銀は上昇





連結子会社数等

連結子会社数等	154
持分法適用関連会社数	16

※2010年3月末時点

センシング&コントロール技術で 「安心をカタチに」



＜お問い合わせ＞

オムロン株式会社

IR企業情報室 経営IR部

電話 : 03-3436-7170

E-mail : omron_ir@omron.co.jp

HPアドレス : www.omron.co.jp